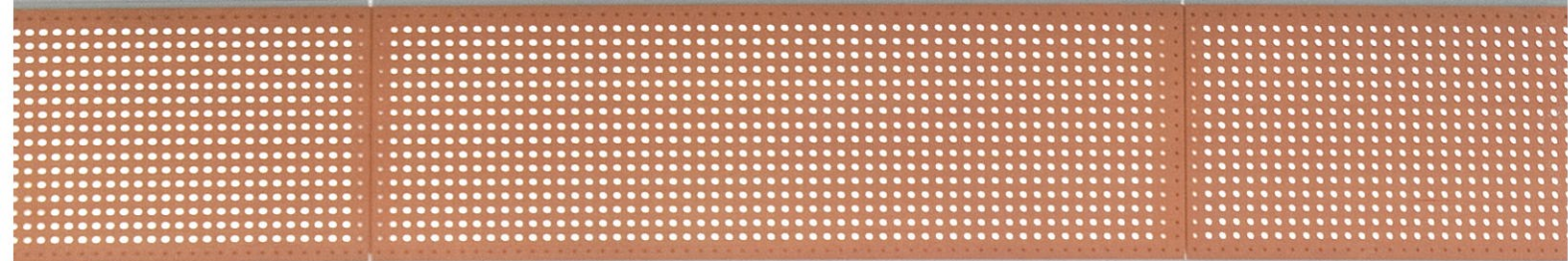


Bridge

vol.2

金城学院大学 父母会会報 [ブリッジ/2号] 2006.7

KINJO GAKUIN UNIVERSITY Parents' Association Report



金城学院大学は、学生たちの“人生を切り拓く意欲と能力”を育むために、2004年度よりキャリアアップ支援プログラム「プロジェクトK」を実施しています。その内容は、1年次から卒業まで段階的に設定されたキャリア開発授業をはじめ、資格取得支援講座や就職関連セミナーの開講、オリジナルツールを使った自己発見の促進など、実に多角的で多彩です。こうした緻密なプログラムに加えて、プロジェクトK発足2年目の2005年12月、メンタル面にも配慮したサポートを行うキャリア相談コーナー『キャリアール』がスタートしました。プロジェクトK発足当初から構想に描かれていたというキャリアール。その目的や活動状況を、プロジェクトK推進のキーパーソンであり、かつキャリアールの発案者でもある宗方比佐子教授に伺いました。



学生の未来をサポートする
キャリアール始動!

Interview

学生部長 人間科学部 心理学科社会心理学専攻

宗方比佐子教授

Hisako Munekata

宗方比佐子プロフィール(写真下段左) 1985年、名古屋大学大学院 教育学研究科教育心理学専攻修了。社会心理学、職業心理学を専門分野とし、女性のキャリア発達や職場のハラスメント、大学生の職業選択などの研究に取り組む。2002年に金城学院大学に就任し、現在、人間科学部心理学科社会心理学専攻教授および2005年より学生部長を務める。経営行動科学学会理事(2004.4~)や名古屋市男女平等参画審議会会長(2005.2~)などに就いて学外でも活躍し、多くの著書も出版。

Contents

特別 インタビュー

宗方比佐子教授

学生の未来をサポートする
キャリアール始動!

総会報告

研究トピックス

課外活動トピックス

information

Bridge

KINJO GAKUIN UNIVERSITY
Parents' Association Report vol.2



Cover Photo

2005年度新設校舎W9・W10竣工記念父母会寄贈品

左写真

Paimio

ハイミオ(1930年)

DESIGNER: Alvar Aalto アルバ・アアルト

フィンランド生まれの建築家。モダニズム建築の巨匠で、デザイン王国フィンランドの通貨に顔や建築物が登場するほどの英雄的な存在。自然の温かさや人間味のある建築が特徴。建築のみならず、家具や照明のデザインも手がけている。北欧の風土と伝統を活かしつつ、近代的感覚を取り入れているのが特徴。「ハイミオ」は、アアルトの代表的建築「ハイミオ」のサナトリウムのためにデザインされたアームチェア。成形合板を使った斬新な座面により「材料革命」と評され、一躍その名を世界に広めた作品。20世紀を代表する名作椅子として知られる。

右写真

LC1 Sling Chair

スリングチェアポニースキン(1928年)

DESIGNER: Le Corbusier ル・コルビュジェ

スイス生まれのフランス人建築家。20世紀最も偉大な近代建築家で、サヴォア邸、ロンシャン教会など世界の建築史に残る作品を残し、現代建築の父とも言われている。また、家具デザイン、絵画、彫刻、都市計画などにも多彩な才能を発揮。「スリングチェア」は、“自由に動く背を持つ椅子”として世界的に有名で、かつてイギリス陸軍がインド駐留中に使用したサファリタイプの椅子にヒントを得たと言われている。座り心地が非常によく、デザインにおいても人々の美意識を魅了してやまない完成度で、今なお強い影響力を持っている。

ごあいさつ

今年度父母会会長を仰せつかりました河村です。日頃は父母会の活動にご理解とご協力を賜りお礼申し上げます。

さて、今回報「Bridge」の第2号をお届けすることになりました。金城学院大学は昨年度から「強く、優しく。」をスローガンに、次世代を担う女性を育てる取り組みをスタートいたしました。われわれ父母会といたしましても、これまで築かれた善き「伝統」とこれからの時代をリードする新しい「革新」に大いに期待をするところです。この会報を通じてこれらの活動の状況を皆様方と共有させていただいたり、皆様からお預かりした会費の使途についてご報告させていただきたいと思っております。学生たちがこの大学生活を通じて新しい時代の女性として、「リーダーシップ」と「パートナーシップ」を身につけ、充実したキャンパスライフが送れるよう皆様と一緒に考えてゆきたいと思っています。今後とも、父母会の活動にご理解とご協力をお願いいたします。

金城学院大学父母会 会長

河村 幸俊

日頃は大学の教育のために、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。父母会のお支えにより、学生の教育の推進と教員の研究の推進が可能となっていることを嬉しく思っています。昨年、薬学部が加わり、総合大学として新しいスタートをきってから一年が経ちます。昨年度より、「強く、優しく。」をスローガンに掲げ、男女共同参画社会をリードできる女性の育成に取り組んでいますが、学生たちも意欲的にのぞむ姿を見せるなど、意識的な変化を日々感じつつあります。今年度も、このスローガンを推進するため、様々なプランを計画中で、将来的には全学あげての取り組みにしたいと考えています。そうした精神に基づき、教育面では、教養教育・人格教育を重視する従来の姿勢は堅持しつつ、実社会で役立つ実務教育の拡充に一層の力を注いでいます。なかでも、コンピュータや英語の運用などの実践的スキルのレベルアップ、そして、キャリア開発に関する科目を1年生の必修としたのははじめ、各学部・学科の専門基礎能力の涵養、資格取得を可能にするカリキュラムの編成を行うなど、キャリア教育においてますますの充実を目指したいと考えております。高い就職率を維持する中、景気回復という明るい兆しも見える現状ではありますが、これにおごらず、学生たちの就職サポートに力を尽くしたいと思う次第です。また、よりよいキャンパスライフと施設の充実をはかるため、昨年度は、W6号館を改修して、子ども学教材開発室等いくつかの実習室を充実したのを始め、心理臨床相談室の増築や学生用駐車場を増設しました。今年度は、図書館の増改築を行っています。また、キャンパス内の全面的な禁煙を進めております。今後とも、大学発展に向けたご支援・ご協力のほど、よろしく願い申し上げます。

金城学院大学 学長

柏木 哲夫

キャリア支援の授業やセミナーを補強する個別カウンセリング

—まず初めに、キャリアエールの活動内容についてお聞かせください。

宗方教授以下教務局/宗方：キャリアエールの活動をひとことというなら、進路や就職に関わる不安や悩みを解消する「個別カウンセリング」です。プロジェクトKでは、キャリア開発の授業やキャリアアップ講座、集団で受けるガイダンスなどを行っています。それらを補強するためのものです。

—どういったきっかけで、スタートすることになったのですか。

宗方：以前から、多くの学生が就職に対して不安を持っていることは把握していました。就職活動の進め方はもちろん、自分の適性や志向すら分からない学生がたくさんいます。こういう学生は何を聞いても「分からない」という答えしか返ってこないで、私たちは「迷子の仔猫ちゃん」と呼んでいるんです。ですから個別のカウンセリングは、プロジェクトK発足当初からその必要性を感じていました。昨年度のこの誌面で、個別対応についてもコメントしましたが、それを読んだ学内の方から早急に実現して欲しいと要望があり、また父母会からの資金援助もいただくことができ、二〇〇五年十一月にスタートすることになったのです。

—開設して半年以上経過しましたが、これまでの利用状況はいかがですか。

宗方：学生のニーズはあると信じていましたが、反響はあまり想像できませんでした。しかし、いざ開設してみると、十一月の利用者が二五〇名を数え、その多さに正直驚きました。その月は興味を持ったさまざまな学年の学生が訪れましたが、翌月からは、実際に就職活動が始まっている三年生が圧倒的に増え、二月の総利用者数は二〇〇名くらい。開設以来、毎日十数名の学生が訪れ、今の時点（二〇〇六年六月三日）で累計一、三〇〇件を超えています。四月に入ったばかりの新生も、「進学を考えているのですが、四年間をどう過ご



—今後の展開として、他にもプランをお持ちであればお聞かせください。

宗方：後期には、内定をもらった四年生にも加わってもらい、後輩に就職活動のアドバイスを送るといったようなことを計画しています。それから、就職に関する情報交換や励まし合いができるような、学生サークルの創設も考えています。

他にもいろいろなアイデアはあるのですが、基本はカウンセリング業務を地道に徹底して行うことですね。一人でも多くの学生と接し、カウンセリングを通じて学生たちのニーズを拾い、そこから次にすべきことを考えていきたいと思っています。

—最後に、プロジェクトKの現状と今後の展開についてお聞かせください。

宗方：当初計画していたプログラムはほとんど着手し、軌道に乗っています。これからの展開としては、学外との連携の強化があります。たとえば、卒業生の経験やネットワークを活かしてインターシブの方法を見直したり、社会人を対象に、女性と仕事に関するセミナーなどを企画・運営して、学生に参加してもらったりなど、キャンパスの外との接点を増やしてキャリア開発に結びつけていきたいですね。

また、すでにさまざまなキャリアアップ講座を実施していますが、時代の流れに沿った独自の講座や検定などを創ってきたいですね。そうした計画を実現させるために、これからは卒業生はもちろんのこと、父母の方々からもご理解と協力をいただきますようお願い致します。

聞き手 ブリッジ編集部



■キャリアシート
カウンセリングを訪れると、まずキャリアシートを作成します。いつ・誰が・どのような相談をしたのか、そしてどんなキャリア支援を行ったのかを保管。スタッフ全員が内容を把握できることで、よりきめ細やかな対応を行います。

■職業診断シート
「プロジェクトK」の教材の一つである「Kノート-職業診断検査」より、さらに具体的に分析できる完全版が進行中。職業選択の意識を高める足がかりを担う、本学オリジナルのツールです。



■カードソートテスト
ワークスタイルや職業への考え方などが記されたカードの中から、自分に近いと思われるカードを選び、仕事に対する価値観を客観視するツール。自分の職業観を整理したい学生などに有効です。

「たらいですか？」とか「秘書になりたいのですが、どんな資格を取ればいいのかしら」と、すでに何名かがキャリアエールを利用しています。新入生のケースではありませんが、相談される内容の中には、集団のガイダンスで過去にレクチャーしたことも多々あります。以前話をしたのと同じことでも、集団の場では記憶に残らないのが現状のようですね。個別対応を始めて、学生が持つさまざまな悩みや不安だけでなく、ガイダンスという形式の限界なども分かりました。

—就職担当の進路相談との棲み分け、どのようにお考えですか。

宗方：就職担当の個別相談を利用する学生は、企業の絞り込みやエントリーシートの添削など、相談の内容が具体的です。しかし、キャリアエールが本来対象とする学生は、その前段階で進路や就職について迷っている人たちです。考えが漠然としていて、これまで就職担当には行かなかった学生たちです。自ずと棲み分けはできると考えていました。ただ、進路が明確になっていくけれどじっくり相談にのってほしい、とキャリアエールに来る学生も多いので、今後は就職担当とさらにより連携体制をつくっていきたく考えています。

—キャリアカウンセラーのノウハウを持つ卒業生が親身になって対応

—カウンセラーは、どんな方ですか。

宗方：現在八名のカウンセラーがいますが、全員がキャリアカウンセリングの専門ノウハウを持っていて、しかも全員が本学の卒業生です。

From STAFF



安藤 りか

Rika Ando

1987年 家政学部児童学科卒
2005年 大学院人間生活学専攻
人間発達学専攻修了

- 臨床心理士
- 産業カウンセラー
- キャリア・ディベロプメント・アドバイザー
- 学校心理士補

私が学生だった頃と比べると、今は就職がシステム化されています。そのシステムにスムーズに乗れるように、第一歩を踏み出しやすくしてあげることが私の役割だと考えています。学生をより良い方向に導くため、臨床心理士としての専門知識にキャリア関係のノウハウをプラスして、本場アメリカのキャリアカウンセラーのレベルまで自分を高めたいと思います。



野村 香名枝

Kanae Nomura

2000年 文学部社会学科卒

- 社会保険労務士
- キャリア・ディベロプメント・アドバイザー
- ファイナンシャルプランナー

カウンセリングでは、学生に積極的に話をしてもらうことが大切です。そのため、話しやすい雰囲気づくりを心がけています。ただ、友達のように話してはいけませんから、言葉づかいには注意しています。金城学院大学が大好きで、先輩はみんなかわいい存在です。この仕事に就けたことを、とても幸せに感じます。

From STUDENT

現代文学部 福祉社会学科 4年

Sayaka Kondo

近藤 砂野香



私にとって、キャリアエールは「落ち着ける場所」でした。困った時や迷った時いつも助けていただき、就職活動で一番大切な「自分を知ること」ができたのもキャリアエールがあったからです。自己分析や模擬面接などで、親身になってサポートしていただいたおかげで、面接では自信を持って自己アピールできました。希望していた旅行業界への就職が決まり、キャリアエールの皆様には本当に感謝しています。

キャリアエールとは...

快適なキャンパスライフを支えるさまざまな機能を有した本部棟の4F学生ラウンジの一角に、2005年12月にオープン。平日の午前10時～午後6時、資格を持ったキャリアカウンセラーが待機し、就職だけでなく人生全般の悩みや不安についての個別カウンセリングを行っています。ちょっとした質問などを相談できるカウンタースタイル（予約不要）から、じっくりと時間をかけて相談できる個別ブーススタイル（予約優先）まで対応。気軽に立ち寄れる雰囲気づくりに努め、ゲーム感覚で自己分析する「カードソートテスト」などが学生たちに好評です。予約はカウンターで直接申し込みを受け付けています。



Interview

Hisako Munekata
宗方比佐子
学生部長 / 人間科学部 心理学科社会心理学専攻 教授

総会報告

去る2006年6月7日(水)大学にて
 父母会総会が開催され、2005年度の事業報告・決算、
 2006年度の事業計画・予算などが承認されました。
 決算・予算は次頁をご覧ください。

TOPIC

◎今年度は地区別懇談会を3会場で開催します。(詳細は裏面をご覧ください)

昨年度、初めて、浜松を会場として、地区別懇談会を開催いたしました。
 静岡地区の方々約70名ご出席くださいまして、
 大学の近況報告、教務、学生生活に関する説明の後、
 個別に就職などについてご懇談いただきました。
 懇談会出席者にご協力いただいたアンケートの結果、
 「毎年開催してほしい」「とても参考になった」などのご意見が多く、
 大変好評でありましたので、今年度は浜松に岐阜、四日市を加えた
 3会場での開催を予定しています。

項目	2005年度収支決算			2006年度収支予算		
	決算額	予算額	増減	2006年度予算額	2005年度予算額	増減
前年度繰越金	24,414,487	24,414,487	0	15,922,358	24,414,487	△ 8,492,129
入会金	9,681,000	9,681,000	0	9,226,000	9,681,000	△ 455,000
会費	25,350,500	25,555,000	△ 204,500	34,849,000	25,555,000	9,294,000
雑収入	4,038	10,000	△ 5,962	10,000	10,000	0
合計	59,450,025	59,660,487	△ 210,462	60,007,358	59,660,487	346,871

項目	2005年度収支決算			2006年度収支予算		
	決算額	予算額	増減	2006年度予算額	2005年度予算額	増減
父母会活動費	7,415,838	8,200,000	△ 784,162	8,200,000	8,200,000	0
地区別懇談会助成費	997,907	1,000,000	△ 2,093	2,500,000	1,000,000	1,500,000 ※1
学生指導助成費	2,153,430	2,500,000	△ 346,570	2,570,000	2,500,000	70,000 ※2
教育研究助成費	9,498,404	9,534,000	△ 35,596	9,604,000	9,534,000	70,000 ※3
事務研修助成費	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0
留学助成費	1,313,290	2,550,000	△ 1,236,710	2,550,000	2,550,000	0
学生教育助成費	6,400,000	7,600,000	△ 1,200,000	7,663,000	7,600,000	63,000 ※4
学生活動助成費	6,874,413	7,900,000	△ 1,025,587	8,040,000	7,900,000	140,000 ※5
卒業記念事業費	2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0
環境整備助成費	1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0
周年事業積立金	1,500,000	1,500,000	0	1,500,000	1,500,000	0
学生施設建設助成積立金	3,000,000	3,000,000	0	3,000,000	3,000,000	0
雑費	374,385	1,000,000	△ 625,615	1,000,000	1,000,000	0
予備費	0	10,876,487	△ 10,876,487	9,380,358	10,876,487	△ 1,496,129
次年度繰越金	15,922,358		15,922,358			
合計	59,450,025	59,660,487	△ 210,462	60,007,358	59,660,487	346,871

項目	組入額
周年事業積立金	4,500,000
学生施設建設助成積立金	3,000,000

※1.地区別懇談会助成費の増額は、開催地区を1地区から3地区に拡大するため。※2.学生指導助成費の増額は、教員増員のため。※3.教育研究助成費の増額は、教員、助手増員のため。※4.学生教育助成費の増額は、学生数増加のため。※5.学生活動助成費の増加は、学生数増加のため。

E1号館1階ラウンジをリニューアル

2005年度卒業記念事業費をリニューアルの費用に充てさせていただきました。ご協力に感謝申し上げます。以前は古いソファなどが置いてあり、暗い雰囲気でしたが、壁や床の色を変えたり、新しい椅子やテーブルを配置して、見違えるほど明るくなりました。このスペースのデザインは、本学生生活環境学部環境デザイン学科の学生の皆さんが担当してくださいました。



E1号館1階ラウンジ

◎2005年度事業報告

2005年4月4日(月) 大学説明会 役員会
 入学式後を利用し、入学生の父母対象に以下の内容について説明を行いました。
 【大学説明】◎キリスト教について
 ◎学生生活について
 ◎教務上の諸事項について
 ◎キャリアアップ講座について
 ◎大学父母会の活動の協力について
 【役員会】◎今年度活動計画の概要の説明
 ◎大学新役職者との懇談

2005年5月30日(月) 役員会
 【役員会】総会審議事項の確認
 ◎2004年度事業報告
 ◎2004年度会計報告
 ◎父母会会則の一部変更
 ◎2005年度役員・委員選出
 ◎2005年度事業計画
 ◎2005年度予算

2005年6月1日(水) 総会
 【総会】◎2004年度事業報告
 ◎2004年度会計報告
 ◎父母会会則の一部変更
 ◎2005年度役員・委員選出
 ◎2005年度事業計画
 ◎2005年度予算
 【教育懇談会】「大学の現状報告資料」に基づき学長から概要の説明
 【懇談会】アドバイザー(クラス担任)との懇談
 【歓迎会】新旧役員・委員及び大学役職者の懇談を兼ねて

2005年9月21日(水) 教育懇談会
 【概要】父母会役員から大学に対して日頃感じていること等の発題をした後、大学役職者と意見交換をしました。

2005年9月24日(土) 地区別懇談会 場所:浜松
 【概要】◎大学の近況説明
 ◎教学上の説明
 ◎学生生活上の説明
 ◎個別懇談(成績関係、就職関係、その他)
 ※詳細は本会報誌裏面にてご案内しております。

2005年12月1日(木) 定期懇談会
 【議題等】◎大学の近況報告
 ◎今後の父母会活動について

2006年2月9日(木) 役員会
 【議題等】◎今年度父母会活動の総括
 ◎卒業記念品について

2006年3月18日(土) 役員会
 【議題等】◎次年度役員選出について
 ◎次年度事業日程について

◎2006年度事業計画

2006年4月3日(月) 大学説明会 役員会
 入学式後を利用し、入学生の父母対象に以下の内容について説明を行いました。
 【大学説明】◎キリスト教について
 ◎学生生活について
 ◎教務上の諸事項について
 ◎キャリアアップ講座について
 ◎大学父母会の活動の協力について
 【役員会】◎卒業記念品について

2006年5月29日(月) 役員会 歓迎会
 【議題等】総会審議事項の確認
 ◎2005年度事業報告
 ◎2005年度会計報告
 ◎2006年度役員・委員選出
 ◎2006年度事業計画
 ◎2006年度予算
 【歓迎会】新旧役員及び大学役職者の歓迎会

2006年6月7日(水) 総会
 【総会】◎2005年度事業報告
 ◎2005年度会計報告
 ◎2006年度役員・委員選出
 ◎2006年度事業計画
 ◎2006年度予算
 【教育懇談会】「大学の現状報告資料」に基づき学長から概要の説明
 【懇談会】アドバイザー(クラス担任)との懇談

2006年7月21日(金) 委員との懇談会
 【概要】講演会及び父母会役員・大学役職者とクラス委員との懇談会

2006年9月19日(火) 教育懇談会
 【概要】父母会役員と大学役職者との懇談

2006年9月2日、9日、16日(土) 地区別懇談会 場所:浜松、岐阜、四日市
 【概要】◎大学の教育方針・近況等説明
 ◎学生生活上の説明
 ◎個別懇談(成績関係、就職関係、その他)
 ※詳細は本会報誌裏面にてご案内しております。

2006年12月4日(月) 定期懇談会
 【議題等】◎大学の近況報告
 ◎今後の父母会活動について

2007年2月26日(月) 役員会
 【議題等】◎今年度父母会活動の総括
 ◎卒業記念品について

2007年3月17日(土) 役員会
 【議題等】◎次年度役員選出について
 ◎次年度事業日程について

大学の研究から、学生のクラブ・サークルまで。
父母会はさまざまな活動をサポートしています。

研究トピックス

特別研究助成を受けて

学会誌での
書評をいただき
手応えを実感

現代文化学部 国際社会学科 教授

伊藤 達也

◎専門分野:地理学・経済地理学



今回、2005年度の金城学院大学父母会特別研究助成を受けることができ、大変感謝しています。2006年2月、『木曾川水系の水資源問題—流域の統合管理を目指して—』(375p)を成文堂から無事刊行することができました。本書は2005年10月に刊行した『水資源開発の論理—その批判的検討—』(成文堂、207p、文部科学省科学研究費出版助成)の続編であり、私にとってこれまでの研究成果をまとめるものとして不可欠なものでした。多くの方のご理解をいただき、両書をタイミングよく出版できたことを大変うれしく思っております。

本書の内容は題名からも推察されるとおり、木曾川水系で発生した水資源問題(長良川河口堰、94年湯水、徳山ダム問題等)の発生メカニズムを解明し、今後の水資源管理政策のあり方を提示するものです。目的を達成できたかに関する学界での評価はまだこれからなのですが、両書とも学会誌(『水資源開発の論理』水資源・環境研究18、『木曾川水系の水資源問題』

地理科学61-2)で書評をいただくことができ、少しずつではありますが、反応が返ってきている状況にあります。現在、専門書の出版は大変厳しい環境にあり、出版社からは出版に当たっての助成費の確保が強く求められています。そうした中、本学の父母会特別研究助成は大変力強い味方であり、今後も研究に精進を重ね、いつかまた出版助成として申請できることを目標にしたいと考えています。



著書『木曾川水系の水資源問題』

学生活動助成を受けて

課外活動トピックス

2006年6月1日から8日までの8日間、私はラクロスの21歳以下日本代表の一人としてオーストラリアのメルボルンで行われた大会に参加しました。海外でラクロスをするのは今回で3回目ですが、今回は日本代表として海外の選手と戦うわけですから、自然と身が引き締まる想いでした。

私達日本代表の目標は「優勝」。計6試合の日程をこなし、結果は3位。やはり海外の選手との体格の差を一番に感じ、そしてその大きな体格を活かした迫力のあるプレーに圧倒される場面もありました。

しかし、体格の小さい私達日本人にも、外国人に通用するプレーがありました。それは「スピード」です。今回のオーストラリア遠征では、私達日本人が体格の差のある外国人に対して、「何を武器にして戦うべきなのか」ということを認識することが出来た遠征となりました。

オーストラリア遠征での経験を活かし、遠征の翌週の6月18日に東京で行われた国際親善試合では、アメリカ大学選抜を相手に勝利をつかむことができました。

日本代表活動を通して、沢山の方々に応援していただき、感謝の気持ちでいっぱいです。また、父母会からは助成金をいただき、支援していただいたことを本当に感謝しています。ありがとうございました。このような素晴らしい経験をさせていただき、ラクロスも勉強も今後ますます頑張っていきたいと思っております。



オーストラリア遠征(右から2番目)

ラクロスU-21
女子日本代表に選出

ラクロス部
生活環境学部 食環境栄養学科 3年
長江 泉名

information

キャリアアップ講座

現代の社会では、大学の卒業資格だけでなく、キャリア・アップとしての様々な資格が社会的に評価されるようになり、就職活動においても有力な要素となっています。そのため、本学では、資格取得をバックアップするため、学内外の講師を招き、在学生向けのキャリア・アップ講座を開催しています。ぜひご参加くださいますようお願い申し上げます。詳細は、本学エクステンションプログラム事務室までお問い合わせください。

地区別懇談会開催

「浜松会場、岐阜会場、四日市会場」

昨年度より開始いたしました地区別懇談会を、今年度は、浜松、岐阜、四日市の3会場で開催する予定です。大学の現状や当該の地域における就職状況の説明の後、就職、教務、学生生活に関するご相談など個別に受け付けます。この地区の方々には、あらためてご連絡いたしますので、ぜひご出席ください。なお、開催日程は以下の通りです。

- ◎浜松(グランドホテル浜松) 2006年9月2日(土) 13:30~16:00
- ◎岐阜(岐阜キャッスルイン) 2006年9月9日(土) 13:30~16:00
- ◎四日市(ザ・プラトンホテル) 2006年9月16日(土) 13:30~16:00